

エデュコ  
**Educo**

学びのチカラで 人と社会を 未来へつなぐ

No.56  
2021年



巻頭インタビュー p.2  
漫画家・文筆家  
**ヤマザキマリさん**

知っておきたい教育 NOW p.4

- ① 教育の情報化とICT支援員の重要性
- ② ICT支援員が必要な理由とは？ 三つの視点 +  $\alpha$  で学校デジタル化を乗り切る
- ③ 特別活動の小中一貫教育  
～中学校区の合同実践研究の成果と課題～

きょういく見聞録 p.10

デジタルコンテンツで日本文化の体験を！  
～「バーチャル日本博」～

Information 北から南から p.12

地球となかよしゼミナール p.14

親と子どもが楽しむ美術館③  
大人も子どももアクセスしやすい美術館

Front Runner p.15

【連載第1回】  
GIGAスクール構想のもとでの教師の課題

ほっとな出会い p.16

タレント **小島 よしお** さん

# 世界はひとつのオーケストラ—— 互いの個性を持ち寄って、壮大な交響曲を響かせる

漫画家・文筆家 | ヤマザキマリさん

**自然を愛する少女時代、  
先生方の思い出**

小さい頃は北海道の自然の中で自由奔放に育ちました。野山を駆け巡って虫や鳥をつかまえたり、川でウナギや魚を捕らえたり。指揮者だった父は幼い頃に亡くなり、母は札幌交響楽団のヴィオラ奏者として女手一つで私と妹を育てていたので、演奏会やレッスンで家を空けることが多かったのです。家でずっと留守番しているとどうしても寂しくなるので、外に出ちやうんですよ。

母は音楽の道で食べていくため裕福な家を飛び出し、知り合いもいない北海道に単身で渡って札幌交響楽団の女性第一号メンバーとなった人でした。

シングルマザーがまだ珍しかった当時、小学校1・2年のときの担任だった1先生は音楽にとってもリスベクトのある方で、母を常にサポートしてくださいました。留守番をしている私たち姉妹には、しょっちゅう「うちに来てご飯食べなさい」と気にかけてくださったり、母が演奏旅行で留守にするときはご自宅に泊めてくださったり。でも学校の中では全くえこひいきはされませんでしたよ。私はいたずら好きだったので、ゲンコツもよく食らいました。

炭鉱労働者の子や貧しい家の子も、いろんな子がいる学校でしたが、それぞれの家庭の事情を配慮して接してくださる先生でした。

校長先生もすばらしい方だったんです。一度母のオーケストラが私の小学校にやってきてコンサートをしたことがあって。校長先生が冒頭の挨拶で、「ここには私たちの学友のお母様も混じっています」とおっしゃったときはとてもうれしかったのを覚えています。当時住んでいた団地では、「あんな小さい子どもたちに留守番ばかりさせてよくない、絶対不良になる」とか、「楽器なんかやめてしまえ」といつも言われて

いたからでしょう。母もうれしかったでしょうけど、私もすごく誇らしかったです。

**14歳でヨーロッパ一人旅**

絵を描くことが好きで暇さえあれば描いていたので、将来は絵描きになると母に宣言したところ、それなら本場の芸術を見てきなさいと14歳で

欧州一人旅に出されました。中学校英語しか話せないのに、フランス・ドイツ・ベルギーに住む母の友人たちの家を、一か月かけて訪ねてまわって。パリで迷子になった時の茫然自失の感覚はいまだに覚えています。ああいうときは子どもでも冷静に俯瞰で自分を見つめるんですね。分離したもう一人の自己が「大丈夫だから」と呼びかけてくる。あのとき、「自分さえいれば大丈夫」という信念が芽生えました。

旅の途中、駅のホームでイタリア人陶芸家のマルコじいさんとの出会いがありました。私を家出少女と勘違いして、心配しすぎて姿を目で追っていたというのです。「こんな子どもをたった一人で旅に出す親がいるのか!」というので、帰国後、母がお詫びの手紙を出すと、芸術家同士意気投合して、手紙のやり取りをする仲になりました。

その旅のゴール地点のルーブル美術館で、さまざまな絵画や彫刻を見たときに、芸術というものがいかに人類にとって重要なものなのかというのを痛感しました。数世紀前の作品がいまだに後世の人々に何かを与え続けている。芸術や文化に対する国全体の姿勢の違いを見せつけられましたね。中



## PROFILE

1967年東京生まれ。北海道で幼少期を過ごす。84年にイタリアに渡り、フィレンツェの国立アカデミア美術学院で美術史・油絵を専攻。2010年『テルマエ・ロマエ』で第3回マンガ大賞受賞、第14回手塚治虫文化賞短編賞受賞。2015年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2017年イタリア共和国星勲章コマンドーレ授章。著書に『プリウス』(とり・みぎと共著)『オリンピア・キュクロス』『国境のない生き方』『ヴィオラ母さん』『ムスコ物語』など。東京造形大学客員教授。

学校の進路指導の先生に画家になりたいと告げると「飢え死にたいのか」と非難されて落ち込んでいたのですが、気持ちが吹っ切れました。日本はなんでも、お金に換算できなきやとか、教育の意味イコール経済的生産性と捉えますけれど、「お金にならなくてもいい、批判されても絵をやっていた」と、大きな勇気をもたらした旅でした。そしてそれが、母が私に一人旅をさせた理由でもあったのです。

## 運命に導かれてイタリアに絵画留学

私の栄養素になるものは日本の学校では賄いきれないと母にはわかっていたのでしよう。母とマルコじいさんの薦めで、17歳で高校を中退しイタリアの美術学校に留学します。本当はロンドンに惹かれていたのですが、マルコじいさんに「芸術の源はイタリアにある」と説得されてイタリアにしたのです。

フィレンツェでは詩人の恋人ができて約10年同棲するのですが、彼がつくった借金を肩代わりし、いつのたれ死んでもおかしくないような困窮生活を経験します。妊娠がわかったのは精神的にも経済的にもどん底で、人生最悪のときでした。それでも、

彼の子ならすばらしい子に違いない、産もうと決心し、同時に二人の面倒は見きれないので、子どもを育てあげるために詩人と別れることを決めました。

生きていくには日本で漫画を描いていたほうがまだ可能性がある。生まれた息子を連れて29歳で帰国したのは、大学講師やテレビのレポーターなど多くの仕事と並行しながら漫画を描く生活を続けました。35歳のとき、もうマルコジいさんは亡くなっていましたが、14歳年下の彼の孫と結婚します。夫は比較文化研究者なので、彼の仕事の関係でエジプト、シリア、ポルトガル、アメリカなどさまざまな国で暮らしました。そこでの経験が後の『テルマエ・ロマエ』創作につながります。

14歳での欧州一人旅もそうですが、別に行きたくて行ったわけではなかった。いややながらでも何かしら動くことやはり、その人のあるべきところに行きつく気がします。自分の意志というより、いつも向こうから物事がやってきて、人生が大きく動いていくのを感じますね。「気は進まないけど、そういう流れになったからいいか」とある種の諦念で受け入れる。そうすると何かが開けて、結果につながる。私はそれを体現してきました。

### 真の教養とは感受性を磨くこと

母が全く無意識のうちにやってきた教育、それは感性と想像力を豊かに育ててく



れたことですね。仕事で家にほとんどいない人だったので、いつも留守番をさせられる悲しさや寂しさは感じていましたが、あれは子どものときに味わわなければいけない大切な感情だったと思います。今は親が子どもにそれを避けて通らせようとするでしょ。ああいう悲しさや孤独といった感情って生かさないと、トータルな感受性が身につかず、未完成的な人間になってしまう。私は母が家にいない寂しさから本をすごく読むようになったし、想像力も豊かになりました。母はよく自分のコンサートに私と妹を連れていっていちばん前の席に座らせました。私たちが退屈して体を動かしている

ので、そこで必死に空想をはたらかせて長い演奏時間をやり過ごす技術を身につけています。それは今の漫画の仕事につながっています。いまだに、漫画のネタが思い浮かばないときにクラシック音楽を聴くと、途端に想像力がふくらんでアイデアがどんどん湧いてくるんですよ。想像力は自分を一生助けてくれます。

知識はのちのち学校で身につければこと足りませんが、それを受け止めるための吸収体をどういうクオリティのものにするかが重要です。それがプラスチックでできたようなつるつとしたものだったら、上からどんなにいいものを植え付けようとしても全部はげ落ちてしまふ。

スポンジみたいな、何でも入ってきて受け止める土台を作らないと。スポンジには穴がたくさんあいていないじゃないですか。その穴はなんであつかうかと思ったら、屈辱とか孤独感、何かが足りない、何かが欲しいと渴望する思い、そういういろんな感受性が、吸収体の構成要素になっていると思うんです。そうした土台を作ることが教育の真の目的ではないでしょうか。

多くの本を読み、映画を観るでもいいし、

早いうちから旅に出かけるでもいい。陶芸家や猟師さん、職人さんなど、情熱をもって生きている人たちに会いに行くでもいい。いろんな感受性の数を増やしていくことが大事ですね。それが真の教養につながると思います。

### 思考停止は危険な道、怠けず自分の頭で考えよう

日本では猜疑心や疑うことをひどくマイナスに捉えますね。ところがヨーロッパに行くとき、ずるがしい人は賞賛されるんです。「ひどい、あの人にだまされた」と私が言うと、「それはだまされたお前が悪いんだ」と必ず言われます。逆に、あいつはなかなかやるなって、だまされたほうを褒めたりします。

現在のコロナ禍みたいに脆弱化している社会で、誰か発言してくれる人をみんなが待っている、そんな状況で疑いの気持ちをもたないでいるのはすごく危険ですよ。信用とか信頼って一見すごく美しい言葉に思えますが、実際は思考停止して相手に責任を丸投げしているだけなので、これほど怠惰なことはない。怠惰が人間にとつていちばんの敵だと思います。

私が5歳のときに絵描きになりたいと言ったら、母が『フランダーズの犬』の本を買ってきてくれました。ネロとパトラッシュが最後に非業の死を遂げて、母は「ほらごらん、絵なんて描いてたらこうなるよ」と。でもそのとき一緒に描いた本が、『シンドバッドの冒険』と『ルスの不思議な旅』なんです。どちらも、ずるい子どもが知恵を絞って、たくましく生きのびる話です。あれを読んだら、『フランダーズの犬』のネロはただの要領の悪い、ばかかな子どもにしか思えなくなつて。待つていれば誰か助けてくれると思つて。誰も助けてくれるわけないじゃないですか、あんな寒いところで、冬に牛乳なんて売れませんよ。子供心ながら

読んでいるうちに、結局この子は甘えている、だめだ、と思っちゃいましたね。もしかするとあの2冊を同時にくれたのも、母のストラテジーだったのかな。どちらかの生き方を選べと言われたら、絶対にシンドバッドだと思つたようになります。

### 多様な社会はまるで大きなオーケストラ

「いじめのない学校」とよく言いますが、いじめはどの学校にも必ずあるし、たとえいじめられずに育つたとしても、社会に出ていきなりいじめられたらもつと悲惨だと思つてしまいます。人間の性質上、この世から差別をなくすのは正直無理だと思つていいます。人間というのはそんなに高尚な生き物じゃないと思うからです。でも、差別と共生していくことが大事なんです。

いまは海外からいろんな情報が入ってくるから、人々の意見がまとまらなくて当然だと思つています。まとまらないものをどうやって統括していくか。よい例がオーケストラですね。母はときどきオーケストラのメンバリの悪口を言っていました。あの人はいい加減だとか、あの人は優しそうだけど意地悪だとか、ホルンのあのひとこの人はもう夫婦じゃないから間違えたらだめよとか。内部の人間関係はいろいろあります。でもみんな演奏家としては一流なわけです。それぞれソリストとして立派に活躍できる人たちが、一緒になって交響楽をやっている。社会もそういうありようを目ざせばいいんじゃないですか。楽器の種類もやっていこうとも全然違うけれど、いざというときは組織としてまとまって、すばらしい楽曲を生み出せる。これってすごく理想的ですよ。学校もそんな感じだったらいいいのになと思います。楽器はバラバラでいい。でもそれぞれ個性を発揮して認め合い、いい交響曲を奏でられるような学校や社会を作つていけたらすてきですね。

# 教育の情報化とICT 支援員の重要性



神奈川県相模原市教育委員会  
指導主事 渡邊 茂一

## ポイント

- ① ICT支援員は、教員の負担を減らすチーム学校の一員である。
- ② ICT支援員には4種の業務があるが、普及後は授業支援で真価を発揮する。
- ③ 自治体の計画を基にICT支援員と連携することで、地域全体の教育の情報化が進む。

## ICT支援員とは

全国のほとんどの学校に、児童生徒用の1人1台のコンピュータが導入され、5か月が過ぎた。各校の先生方は日々試行錯誤しながらその活

用を進めているが、忙しい業務の中で、新たにICTを活用するスキル等を身につけながら、授業や校務など教育を情報化していくことは、先生方にとって大きな負担となっている。このような中で、活躍が期待されるのが、ICT支援員だ。

ICT支援員とは、学校における教員のICT活用をサポートすることにより、ICTを活用した授業等を教員がスムーズに実施するための支援を行う人員である。現行の指導要領では、総則に、すべての学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」が位置付けられ、その育成のため、学校のICT環境整備が定められた。しかし、ICT関連業務は多岐にわたることから、そ

れらを分業して教員の負担を減らし、教員が授業に専念できるよう、チーム学校の一員としてICT支援員が位置付けられている。そのためには、4校に1人の割合での配置を目指し、単年度1805億円の地方財政措置を講じている。そして、その導入形態は、教育委員会が直接雇用する場合と、業務委託契約をする場合の大体2つに大別される。

※ICT支援員は、令和3年8月23日学校教育法施行規則の一部改正により「情報通信技術支援員」としてその職務内容が規定されました。

## ICT支援員の

## 果たすべき業務

ICT支援員の業務は表のように、授業支援、校務支援、環境整備、

### ICT支援員の業務

業務	業務の詳細な例
授業支援	授業計画の作成支援、教材作成、ICT機器の準備、ICT機器のメンテナンス、操作支援、学校行事等の支援、障害トラブル対応、ICT機器の片付け、ICT機器活用事例の作成、ICT機器の利活用状況把握、等
校務支援	学籍管理の操作支援、出欠席管理の操作支援、成績管理の操作支援、通知表・指導要録作成の操作支援、時数管理、施設管理、サービス管理の操作支援、等
環境整備	日常的メンテナンス支援、障害トラブル対応、年次更新、ソフトウェア更新、運用ルール作成支援、セキュリティポリシーの作成支援、ICT機器整備計画の作成支援、等
校内研修	校内研修の企画支援、校内研修の準備、校内研修の実施、校内研修の実施支援、等

校内研修の4種に整理されている。この業務の内容や質は、各学校のICT環境の「導入期」と「普及期」において変わってくる。

「導入期」では、環境整備や校務支援等に関する支援が多い。さらに、授業で利用する先生が出てくると、教員や児童生徒がICTを活用した授業を行う際に、正しくソフトが動作するか、ネットワークがつなが

るかなど、授業が機器の不具合で中断されないよう操作支援や障害トラブルへの対応が多くなる。

「普及期」に入ると、教員がICTに慣れてくるため、環境整備や校務支援の業務は減少し、授業支援の比重が大きくなる。授業中のトラブルには教員、児童生徒ともに慣れてくるため、教員が思い描く学びをICTで実現するにはどうしたらよいかということについて、情報提供、授業支援のマニュアル作り、研修実施による周知など、カリキュラムマネジメントに関する支援も増えてくる。教育や学校の実情を踏まえて、専門的な知見から、学びの情報化に大きく貢献するこの普及期の業務こそ、ICT支援員の真価が発揮される。

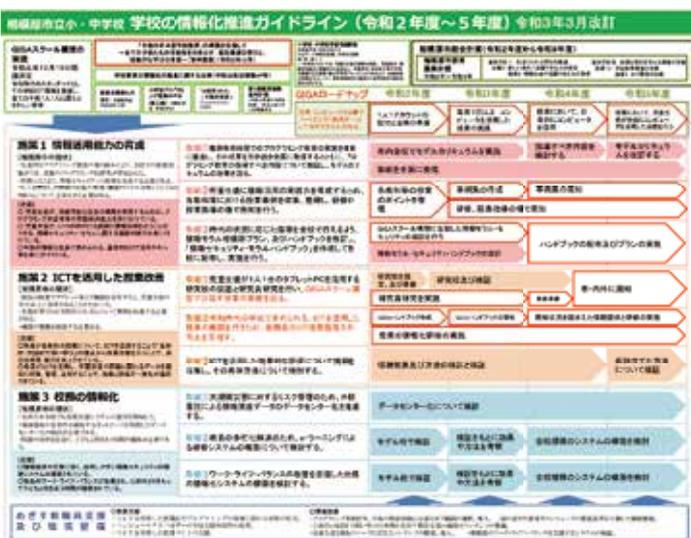
### ICT支援員との連携による自治体全体の推進と相模原市の例

教育委員会の立場の方には、ICT支援員との連携により、自治体全体の教育の情報化が可能になる可能性にも注目して欲しい。

例えば、1人のICT支援員がAからDの4校に派遣されている場合、4校すべてに対し、教育委員

会が定めた計画に基づく教育の情報化を、ICT支援員を通して進めることが可能になる。さらに、A校で突出した取り組みが行われたときは、ICT支援員が他の3校に、その取り組みの情報提供や実施支援を行うことで、進んでいる学校を基準に地域が底上げされる。そして、複数のICT支援員同士が連携することにより、さらに多くの学校の事例や実践が収集されて各ICT支援員によって伝播し、自治体全体の

※こちらから図の詳細をご覧いただけます。↓



■(図) 相模原市の教育の情報化の計画

教育の情報化が行われるのである。このために必要なのが、自治体の教育の情報化に関する計画である。(図)

この計画は、単なる機器の整備の計画ではなく、情報活用能力の育成や、教員のICT活用指導力の向上など、児童生徒や教員の質的な姿の設定が大変重要となり、そのことをICT支援員たち、もしくは統括する委託業者等と綿密に共有する必要がある。

相模原市ではICT支援員について、平成21年度より「コンピュータアドバイザー」という名称で業務委託契約により市立学校に派遣しており、現在106校に25人程度、ICT支援員を年間最大21回ずつ派遣している。市の教育の情報化に関する計画では、「情報活用能力の育成」「ICTを活用した授業改善」「校務の情報化」を施策として掲げ、特にプログラミング教育やICT活用スキルの上など情報活用能力育成の取り組みに力を入れている。各学校で

は市の計画に基づいて立てた個別の教育の情報化計画があり、派遣日や業務内容は、この計画を基に各校とICT支援員で相談し、決定している。また、ICT支援員の活動について、教育委員会と委託業者で月1回の定例会を設け、各校のICT支援員の支援状況の情報交換を行っている。そして、市内の学校における推進に偏りが出ないように、ICT支援員を通じた働きかけをお願いしたり、情報交換を基にさらなる推進の手立てを計画したりしている。令和3年の5月の報告では、ICT支援員が行った業務のうち46%が授業支援で、プログラミングの授業支援や児童生徒のタブレットPCの操作練習の支援が上位に入っていた。このことは、相模原市のICT支援員の業務が普及期に入っていること、相模原市が重点を置いているプログラミング教育やGIGAスクール構想の推進がICT支援員を借りながら進んでいることを示しているところから考えている。

多くの自治体で、ICT支援員がいる状況が文化となる「チーム学校」を実現し、教育の情報化が推進されることを期待している。

# ICT支援員が必要な理由とは？ 三つの視点 +αで学校デジタル化を 乗り切る



株式会社 JMC  
ICT支援員 島田 直美

教職員が四苦八苦している一方で、子どもたちは、自分用コンピュータに目を輝かせ、早く使いたくてたまらない様子だ。子どもたちには「想定外」を瞬時に「想定内」にする能力が備わっている。

この劇的な変化の中で、「今までなかったって授業できていたんだし、調べ物はPC教室のパソコンで十分じゃないの?」「そもそも一人一台のパソコンを配る意味なんてあるの?」と考えている方はいないだろうか。

## 【魚の目】で、学校デジタル化の潮目を見る

文部科学省は、2020年度改訂の学習指導要領の背景には、来るべき未来の予測例として「2011年に小学生になった子ども65%は、今は存在していない職業に就く」(キャシー・デビッドソン教授、米・ニューヨーク市立大学)などを挙げている。

すぐそこに、予測困難な時代が来ているのであれば、子どもたちへの教育も変わらざるを得ない。相模

## ポイント

- ①【鳥の目】: 全体を俯瞰する  
GIGAスクール構想で、ICT支援員が見た現在の学校の状況は?
- ②【魚の目】: 潮(時代)の流れを見る  
「Society 5.0」を見据えて
- ③【虫の目】: 詳細を注意深く見る  
学校デジタル化の課題は主に4点。ICT支援員で乗り切ろう。

## 【鳥の目】で、学校デジタル化の現在を俯瞰する

新型コロナウイルスの広まりにより、子どもたちはさまざまな制約を強いられ、楽しい学校行事が次々と中止・縮小となった。さぞや寂しい雰囲気が漂っているであろうと学校を訪問すると、以前と変わらず子どもたちは元気いっぱい。マスクをして、給食は黙食するなど環境に適応し、すっかり新しい生活に馴染んでいる。コロナは悲しい「想定外」の出来事だが、一方でオンライン教育の必要性が究極に高まり風向きが変わった。「想定外」は人間を進化させる。

ICT支援員として日々パソコンに向き合う私も、その急速な変化を肌でひしひしと感じている。

コロナ禍でGIGAスクール構想は加速し、一人1台端末と高速インターネットが各学校に配備された。私も子どもたちが教室で一斉にパソコンを広げた光景を初めて見たとき、「ついに時代が変わった」と感慨深い気持ちになったものである。しかし、実際問題として、それらは今のところ完全にうまく機能しているとはいえず、発展途上にある。ICTの活用が洗練されるまでは、トライ&エラーが必要だ。

今までの「当たり前」が通用せず、

(参考) 児童生徒が学習活動で活用する道具と授業の段階について

段階	0	1	2
	昭和の授業形態	(コロナ以前まで) 目指されていた状況	R2以降 nationwideの学校
相模原市内の現状	相模原市のほとんどの学校	市内研究校等	※ここを目指さなければいけない
児童生徒が個人の意思で授業中に自由に使えるもの	えんぴつ 消しゴム ノート	えんぴつ 消しゴム ノート	えんぴつ 消しゴム ノート <b>コンピュータ</b>
学習課題や学習活動に応じて、教員の判断で活用させるもの	ワークシート ホワイトボード 工具、道具 模型、など	<b>コンピュータ</b> ワークシート ホワイトボード 工具、道具 模型、など	ワークシート ホワイトボード 工具、道具 模型、など
学習活動に必要なもの	<b>コンピュータ</b>		

引用：相模原市の目指すGIGAスクール構想の実現による教育のイメージ

原市はデジタル化社会の子どもたちに必要な勉強道具として、コンピュータがマストアイテムになっていくことを目標として掲げている。教育もまた、時代の変わり目に来ているのだ。

## 「虫の目」で、学校デジタル化の課題をつぶさに見る

そういう話をすると、そうはいってもデジタル機器やソフトはドンドン新しくなるし、使い方を覚えるだけでも精一杯、という声が聞こえてくる。そこで鍵となってくるのがICT支援員なのである。今、ICT活用で学校が抱える

課題は次の4つに分類される。①授業におけるICT活用、②校務におけるICT活用、③ICT環境整備、④教員のICT活用指導力の向上。ひとつひとつ順番にみていこう。

### 【①授業におけるICT活用】

新学習指導要領では、初めて「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力と位置付けられた。特に、必修化されたプログラミングの授業でICT支援員を活用する例が多いようだ。支援員は、プログラミングの授業支援実例のノウハウを着実に蓄積しており、先生方に授業の進め方で子どもたちがつまづきやすいポイントについてアドバイスしたり、実際に授業で操作方法を子どもたちに伝えたりする事も可能である。相模原市では、左の「相模原プログラミングプラン2020」を発行しており、



この冊子を教員と一緒に見ながらプログラミング授業でどんな支援が可能か相談するのに役立ててほしい。

### 【②校務におけるICT活用】

教師の長時間労働が大問題となっている。先生方の校務の負担軽減を図り、よりよい教育を実現させるため校務の情報化は喫緊の課題だ。ICT支援員はそのような先生方の一助になるべく校務支援業務を行っている。具体的には、ホームページの更新・通知表レイアウト作成・学校にあるさまざまな校務支援ソフトの効率的な使い方指南などだ。特に昨今は環境配慮からペーパーレス化が進んでいるため、保護者への手紙をデータ化してホームページに載せるといったような支援が増えている。

### 【③ICT環境整備】

デジタル化において機器トラブルはつきものだ。軽微な問題であれば、その場でICT支援員が解決可能であるし、障害の一次切り分けをして事象を先生にお伝えすることもできる。困ったときの相談役としてもぜひ頼りにしてほしい。

### 【④教員のICT指導力向上】

新しく機器・ソフトが導入される際には、ICT支援員が教職員に使い方の研修をすることが可能だ。また、教育の情報化が進む令和では、今までのように教科書に載っていることを忠実に言う教育だけでは限界がある。ICT支援員と情報を共有しながら、常にアンテナを張りトレンドをつかんでいくことが今後の教育で大きなテーマとなってくるだろう。

## 「コウモリの目」で、ICT支援員で発想の転換

最後に。学校にいる教職員は皆同じチームで同じ方向に進んでいる。一方で、ICT支援員は、各学校を巡回しているため、ときには反対側、逆さの立場から状況を見直すこともできる。学校の先生方が普段当たり前に取り組んでいる業務に対し、より効率的な方法を提示する、他校で実践しているよい例を提案するなど固定観念にとらわれない発想が可能となる。ぜひ、今後もICT支援員を積極的に活用してほしい。

# 特別活動の小中一貫教育 ～中学校区の合同実践 研究の成果と課題～



元文部科学省初等中等教育局  
視学官・前國學院大學教授

宮川 八岐

においても同様で、その対応等について教育委員会主催の研修会や各種の研究会の話題になっている。

その中で、中学校の特別活動第2「学級活動」3「内容の取扱い」(1)において、「(略)集団としての意見をまとめる話し合い活動など小学校からの積み重ねや経験を生かし、それらを発展させることができるよう工夫すること。」が明示されたが、このことが全国の小・中学校においてどれだけ重要課題として受け止められ、指導改善に取り組むようになっていくかはなほだ疑問である。

この一項目が新たに書き加えられた経緯は定かではないが、恐らく中教審特別活動ワーキンググループの検討やその際の資料が反映されていることと推察される。

その資料というのは、一つが、授業が成り立たなかった小学校が学級会の指導改善で立ち直った事例（やがて、進学先の大荒れの中学校も正常化していった。）で、もう一つは、学級会の指導充実によって多かった不登校や欠席数の解消が図られた事例である。しかも、両者とも生徒指導上の改善だけで

## ポイント

- ① 学習指導要領上での特別活動は、「小中一貫」になっているが、学級活動においては、これまで小と中の取り組みに大きな違いがあった。
- ② 中学校区の小中合同の実践研究で、大きな成果を挙げている事例があり、その取り組みの大きな広がりが見込まれる。
- ③ 都道府県市町村の教育委員会主催の研修会や研究指定などの取り組み、教育研究会の組織の改善などにより、新学習指導要領の趣旨のより確かな実現が望まれる。

## 小中一貫教育と学習指導要領

かなり以前から中高一貫校の創設をはじめ「小中一貫教育」への取り組みが進んでいる。

先日、ある市の教育長が「先生、本市において小中一貫教育の充実に取り組んでおります。特別活動においても同様に…」とおっしゃるので、その内容をお聞きすると、交流中心の小中連携への取り組みの話だった。

考えてみると学習指導要領は、小中一貫になっているはずである。教科においては、内容の系統を発達の段階に応じて一貫であり、特別活動においても、構造的には一貫した内容構成になっている。しかし、教科

書がない学級活動の指導は、多くの学校において小学校と中学校とでは一貫性がないというのが現状である。

私は昭和44年度から教職に就き、教諭、教頭、市教委、校長、文部科学省、大学と学校教育に携わってきたが、その間ずっと「何とかならないのか」と思い続けてきたことの一つが、学級活動の小中一貫の指導充実である。

## 今次改訂における「小中一貫の学級活動」の取り組みへの課題

いわゆる「三〇年改訂」の学習指導要領には、幾つかの新たな課題が示されているが、特別活動に

なく、学力向上も図られており、そのデータも紹介されたものである。

## 中学校区による小中合同研究の成果を全市的取り組みに拡大する教育委員会の支援

平成21年度から前述の小学校が学級会を通して児童自身による豊かな生活づくりの実践活動の指導に取り組み始めた。生徒指導や集団活動の指導観を改めることから始め、望ましい集団活動としての学級会や係活動の意義の理解や指導の成果を徐々に高めていき、その成果は、進学先の中学校をも変えていった。

そのことから中学校の教師たちは小学校の学級会の授業を参観するようにになり、やがて、当該小学校と中学校の小中連携、そして中学校区の小学校2校と中学校による「小中一貫の学級活動の合同研究」へと進んだのである。

その取り組み方や成果は、教育委員会主催の「夏季一日研修（市内各小中学校悉皆参加の研修）」（写真）で発表され、全市的な中学校区の取り組みに広げられた。



この研修会で発表したK中学校は、小学校と一貫した学級活動（特に学級会の指導）に取り組んだ成果を次のように述べている。

- 小中の学級活動が一貫したことで中1ギャップが解消された。
  - 話し合いで折り合いを付けて結論を出すことができるようになった。
  - 個人のわがままな言動が少なくなり、問題行動もなくなった。
  - 自発的な活動が多くなり、生徒会や専門委員会、部活動の話し合いなどの活動が円滑になってきた。
  - 教科の学習にも学級会の理由を述べる発言方法が生かされている。
- 等々

この中学校区の小中合同研究の2つの大きな研究内容の柱は、次の(1)と(2)である。

(1)「年度初めの学級経営・学級活動スタート7つの実践課題」への取り組み（基本型として共有①）

その7つとは、①始業式・入学式の日の「出会いづくり」、②「学級目標づくり」（学校教育目標の学級化）、③「学級の組織づくり」（その1・生活指導）、④「理想・めあてづくり」（理想の学級生活・個人の実践目標の指導）、⑤「学級の組織づくり」（その2・自治的活動組織）、⑥「実践活動づくり」、⑦「評価・改善づくり」で、④～⑥が学級活動の授業。⑦は教師による4月1か月（①～⑥）の学級経営の振り返りである。

(2)「学級活動2つの指導法」の「理解と授業研究」への取り組み（基本型として共有②）

2つの指導法とは、①学級活動(1)学級会の指導（「3つの柱」と「3段階討議法」）と、②「学級活動(2)・(3)の4段階展開法」であり、特に、児童生徒による自発的・自治的活動としての学級会の授業研究を中心とした取り組みである。

## 今後への期待

学級活動の研究校では、「学級に親和的な人間関係が生まれる」「話し合って創意工夫し合い、創造的に問題を解決しようとする態度が育つ」「不登校や欠席が減少」「自己有用感や自己肯定感が高まる」「自発的な態度や学習意欲が高まり、学力テストでの国語B問題の成績が向上」などの共通の成果がみられるという。

しかし、このことを多くの学校、教育委員会等は理解していない。前述の教育委員会が、学級活動を全市的な中学校区ごとの研修としたのも、大荒れの小学校、中学校が私の指導助言で驚きの変化と大きな成果を挙げたからである。

免許法や大学の授業改善を待たずでもなく、都道府県市町村の教育委員会主催の研修会や研究指定の取り組み、教育研究会の組織を小中一体にし、全国の市や町に拠点となる研究校（中学校区）を設置するなどが進むことを期待したい。

※詳細についての質問は、「宮川八岐ホームページ」の問い合わせ先から↓





●展示エリア



●展示エリアの様子 (例) 特別展「富嶽三十六景への挑戦 北斎と広重」江戸東京博物館

す。また、今後オンラインツアーや、舞台公演などの配信を順次行う予定です。

なお、日本博公式WEB「デジタルギャラリー」でも動画、VRがご覧いただけます。

本の美」を、美しい映像、VR、画像などを通じてバーチャルの世界で体験することができます。

実際に行われる日本博事業とのつながりをもたせつつ、1万年前の縄文時代の文化財から、仏像などの彫刻、浮世絵、工芸、きもの、ファッション、現代アートなどの展覧会、歌舞伎、能楽、文楽などの伝統芸能、芸術祭、アイヌ文化などのコンテンツを日本語と英語で掲載し、国内外からアクセス可能なバーチャル空間を構築していきます。

### ■今年の秋以降にはさらにコンテンツと機能を充実

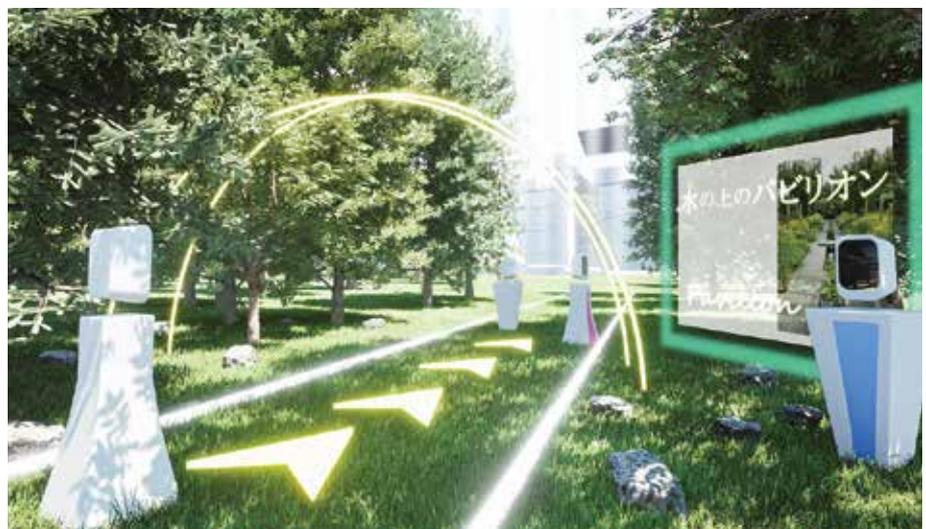
8月は、日本博でこれまで実施してきた事業や、現在、各会場で開催されている事業のうち、45事業、計240点のコンテンツを掲載しています。バーチャル空間内では自由に回遊してさまざまなコンテンツを楽しめます。

美術、音楽、社会、英語、総合的な学習などにおいて、是非、ご参考にしていただきたい作品を掲載しています。



### 今後のバーチャル日本博

秋以降には、3DCGで描く空間を拡張するとともに、オンライン配信に視聴者がアバターとなって参加することで、事業者と参加者のコミュニケーションが可能となる機能などを追加します。友達どうし、学校などで、複数人で一緒にアバターとなって空間の中で楽しめるような機能を充実したいと思います。



●秋以降回遊イメージ

# きょういく 見聞録

## デジタルコンテンツで日本文化の体験を！ ～「バーチャル日本博」～

政府が自治体、民間団体との連携で実施する日本博では、縄文から現代までの「日本の美」を、8月より仮想空間「バーチャル日本博」でデジタルコンテンツとして提供を始めました。日本文化を次世代に伝え、未来の創造につながる「リアル体験」と「バーチャル体験」の融合を旨とした取り組みです。是非ご活用ください。

独立行政法人日本芸術文化振興会日本博事務局 えんにゅう 圓入 由美

### ◆日本博について

日本博は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機とする文化プログラムの中核的事業として、文化庁および独立行政法人日本芸術文化振興会が中心となって、関係府省庁、地方公共団体、民間団体等と連携しつつ、各地域が誇るさまざまな文化芸術活動を、総合テーマ「日本人と自然」の下、年間を通じて体系的に展開するプロジェクトです。

縄文から現代まで、美しい自然だけでなく、日本では災害や疫病などにどのように向き合い表現してきたかが感じられる、絵画、彫刻、工芸などの美術品から能楽、歌舞伎、文楽、などの伝統芸能、きもの・ファッション、建築など、現代に通じるたくさんの物語を感じられる美術展・舞台公演、芸術祭等を実施しています。また、これまで新型コロナウイルス感染症対策について万全の対策を行いながら開催するとともに、日本博公式WEBでも多言語映像コンテンツの制作・発信を実施してきました。令和3年度は、実際の会場での「リアル体験」と、デジタルコンテンツによる仮想空間をオンライン上に設置した「バーチャル体験」の融合を旨とし、国内外へ発信していく「バーチャル日本博」を8月17日（火）にオープンしました。「バーチャル日本博」では、縄文から現代までのさまざまな「日本の美」を表すデジタルコンテンツとして、動画、VR、画像を活用した新しい文化芸術活動を日本語と英語で発信する取り組みです。

### 「バーチャル日本博」開設の背景・目的

#### ■「リアル体験」と「バーチャル体験」の融合を旨とした新しい文化芸術発信

新型コロナウイルス感染症の影響の中で展開されてきた多くの事業は、一部縮小、入場制限を行い、万全の感染症対策を講じた上で実施してきました。そのような中で会場にお越しいただけない方々にもデジタルコンテンツでお楽しみいただき、コロナ収束後には、多くの方々が実際の会場で、リアルな体験を通じて、人と人とのつながりや、感動、喜びなどを感じていただきたいと願っています。「バーチャル日本博」は、国内外の皆様「日本の美」を体験していただく、新しい文化芸術の鑑賞方法として、未来の創造へつながるプラットフォームの実現を旨とします。

#### ■縄文時代から現代まで続く「日本の美」をバーチャル空間で体験

日本博事業が表現するさまざまな「日



●パビリオン外観

静岡

## 持続可能な社会の創り手を 育む教育

～学校・企業・行政が連携した質の高い学びを求めて～

富士市立岩松北小学校 校長 宮川 貴志

本校は、平成25年に「ユネスコスクール」の認定を受け、ESD、SDGsの視点を取り入れている。その中核をなす学習が「けやき学習」であり、生活科・総合的な学習の時間において、学級ごとに子どもの思いによる単元を構成した活動を実践している。教師は、子どもが「主体的」に探究学習ができるよう、学級ごとのあゆみ（物語）を「けやきカレンダー」としてカリキュラムマネジメントしている。

近年、新しい学びのスタイルとして、「学校・企業・行政の連携を通じた学び」が展開されている。昨年は、4年生（現5年生）が、教室環境に関する困りごと（暑い、まぶしい、風が通らないなど）を解消するため、株式会社LIXILと富士市の協力を受け、外付日よけ（スタイルシェード）を使った検証実験を行った。このプロジェクトは、「全国の小学生のために」という願いをもち、シェード設置前後の教室の温度とWBGTを測定するなどしてシェードの効果を測ったほか、エアコンを使いながら教室内の温度差を少なくし熱中症予防をする窓の開閉方法についても検証した。猛暑の中、新型コロナウイルス感染症予防のため、窓を開けて換気をしながら熱中症予防をする「コロナ禍における三位一体（学校・企業・行政）の取り組み」は、熱中症予防声掛けプロジェクト事務局が実施する「ひと涼みアワード2020」における官民連携部門で最優秀賞および全国No.1のトップランナー賞を受賞した。

今年度も5年生は、「けやき学習」を通して、昨年の研究（学んだこと）を全国に広めるとともに、人にやさしい・人がやさしい幸せなまち（地域）づくりを進めていきたいと意気込んでいる。

シェード設置から始まった学校・企業・行政のプロジェクトは、持続可能な社会の創り手を育てる質の高い学びへと広がり続けている。



QRコードから学校ホームページをご覧ください。



活動の様子は、株式会社LIXILのホームページからもご覧いただけます。



株式会社LIXIL、富士市とのZOOM相談会

全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

石川

## 小学校の音楽活動が社会を 変えられるか

白山市立美川小学校 校長 今井 直人

古くは北前船の港町として栄えた美川地区には、地域独自の自然環境、産業、伝統文化などが今も残り、本校では、特に生活科や総合的な学習、学校行事などでそうした地域素材を取り入れた活動を実践しています。

ただ少子高齢化や伝統文化の後継者難といった問題はどこも同じで、学校側からではなく地域団体側から、学校で取り組んでもらえないかという相談をいただくこともあります。

そのうちの一つに、町の一大イベント「おかえり祭り」で神輿を先導する「ラッパ隊」をクラブ活動でやってもらえませんかという依頼がありました。トランペットがいわば完成された洋楽器なのに対し、こちらはいわゆる「ラッパ」なので、シンプルなつくりでピストンもなく、倍音だけで威勢よく吹くものです。マウスピースの当て方と息の吹き込み方を覚えれば、高学年なら何とかやれそうです。初年度は10名ほどが参加し、そのうち半数ほどが女子でした。

ただ、このお祭りは神事なので、長い歴史の中で神輿の担ぎ手はもちろん、ラッパの吹き手も男性だけでした。しかし時代はジェンダーフリー。このクラブの女の子たちも10年後には、ラッパを手に神輿を先導しているかもしれません。

そもそも青年団員が減少し、ラッパ隊が存続の危機に見舞われていることから持ち込まれた話でしたが、地域行事に参画する中で学校と地域がWin-Winの関係になれば理想です。しかしそれ以上にこの音楽活動は、伝統行事への女性参画という点で社会を変える可能性を秘めているものと期待しています。

聞いた話では、地域側もいずれは女性OKを考えているとのこと。あとはコロナの終息、クラブ再開待ちです。



写真提供：白山市観光協会

京都

## 生徒会活動として取り組む「ノート検定」

同志社大学免許資格課程センター 教授  
京都市立嘉楽中学校 元校長 井上 浩史

京都市立嘉楽中学校の「ノート検定」を紹介します。この取り組みは、生徒たち自らが楽しく学習できる環境を学校生活の中につくり出し、生徒どうしが協力し合うことで、一人一人の進路実現に向けて学力向上を図ることを目的としています。

「ノート検定」とは、授業をしっかり受け、ノートをきちんと取ることが学力向上につながるという考えに基づき、生徒がまとめた5教科（国語、社会、数学、理科、英語）のノートを、教師が検定（1～5級）し優れたものを全校生徒に紹介して共有する年間5回の取り組みです。検定後は、1級のノートをモデルノートとして廊下に掲示します。実施当初（平成28年度）は教師主導でしたが、生徒会活動に位置付けた（平成29年度～）ことで一層効果的な取り組みになりました。

まず、検定当日の会場（体育館）準備や進行役を専門委員会の学習協力委員会の生徒に任せました。そして、生徒集会（生徒会主催）で、1級を取得した生徒が学習協力委員長から表彰されるようにしたことで、生徒たちに大きな変化がありました。「落ち着いた態度で授業を受ける生徒が増えた」「学力低位の生徒がノートを取るようになった」等多くの声を教師から聞きました。生徒アンケートでは、「授業に主体的に取り組んでいますか？」に対し、肯定的回答が取り組み前より上昇、併せて全市共通の「学習状況確認テスト」の結果も上昇しました。生徒会活動が、生徒指導と学習指導をつなげる大きな役割を果たすことを実感しました。

現在（令和3年度）、検定基準を「社会につながる表現力の育成」の観点で設定し取り組んでいます。また、各単元の終わりに、「ミニ検定」（学級内で生徒相互にノート検定）を、学習協力委員が中心になって実施しています。さらに、小中連携事業として、校区の小学校においても「ノート検定」を実施しています。



愛知

## 自分を大切に、よりよい人間関係を築くことのできる生徒を育てて

—「しっぴータイム」を通して—

あま市立七宝中学校 校長 梶浦 寿男

本校では、重点教育目標である自尊感情・自己肯定感を高めることをねらい、平成27年度より「しっぴータイム」の取り組みを継続している。「しっぴータイム」とは数種類の簡単なエクササイズ（演習）を四人一組で行う中で、ソーシャルスキルの定着&自尊感情・自己肯定感の向上を旨とする活動である。円滑なコミュニケーションに必要な「あいさつ」「うなずき」「見渡して話す」に「指示を聴く」を加えた4つのルールを守り、意見や考えを伝えたりしっかりと聞いたりする経験の繰り返して、自尊感情や自己肯定感も高められると考えて取り組んでいる。月曜日の給食後10分間のこの活動をよりシンプルに行うため、必要なセットを集約し、それを黒板に貼るだけで行える手軽さもこの活動が長く続いている秘訣と考えている。

活動開始当初から、このプログラムを提唱する名城大学曾山教授による「型」の確認機会を年2回設けて助言をいただき、また、年度初めの校内現職教育でも確認している。職員には転勤があるが、全職員が共通理解の上、同一歩調で生徒にアプローチできることを心掛け、七宝中の文化として根付くことを目指して一貫した取り組みを継続している。これが同時に生徒の安心感にもつながっている。

現在、校区内の小学校でも進めており、生徒たちにスキルがかなり定着している。講話する人が話しやすい全校的な雰囲気よさや新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」にも直結する活動となってきた。グループ活動への切り替えの速さや全員が偏りなく建設的に話す姿、学びの深まり方を見ると、活動を継続してきた効果が感じられる。

最近、視察や学習会の問い合わせをいただき、より多くの先生方にこの活動のよさを伝えたいと考え、準備を進めている。この活動を共に進める「仲間」として支え合い、より深化する活動へとつなげていきたい。



QRコードから学校ホームページをご覧ください。



## 親と子どもが楽しむ美術館③ 大人も子どもも アクセスしやすい美術館

六花亭製菓株式会社「中札内美術村」「六花の森」  
館長 飯田郷介



チルドレンズ・アート・ミュージアム

「学校まるごと美術館」「チルドレンズ・アート・ミュージアム」などのプログラムも意欲的に続けられています。「未就学児童対象プログラム」は、倉敷市内を中心に、例年30近い保育園・幼

海外の美術館を訪れると、平日の美術館の中で子どもたちの姿をよく見かけます。パリのオルセー美術館でも一枚の絵の前に子どもたちが車座になり先生と絵について語りあっています。またドイツの小さな美術館を訪れた折には、一人の先生がクラスの生徒を引率して美術館を回っていました。後で聞きましたら当時ドイツでは、先生の裁量でお天気の良い日には、学外へ出かけることができる時間があるそうです。公園や美術館、博物館などに出かけているそうです。日本国内の学校では、クラス単位ではなく学年単位での課外授業になるそうで、ゆっくりと美術に向き合う機会は少ないようですが、国内の美術館では、子どもたち向けのさまざまなプログラムが展開されています。

そのような中で20年以上、子どものためのプログラムを展開されているのが、私立美術館として日本で初めて本格的に西洋近代美術を収蔵・展示した大原美術館（岡山県倉敷市）です。大原美術館では、学生・一般向けの教育普及プログラムが数多く用意されていますが、子どもたちのための「未就学児童対象プログラム」

「学校まるごと美術館」は、倉敷市内の二つの小学校の全校児童が、それぞれ美術館の休館日を利用して来館し、学校教員が大原美術館内で授業を行うというものです。教員は、事前に美術館で研修を受け、美術の知識だけではなく美術館が社会の中でどのような役割を担う施設なのかなどを学習する。教員の方々のレッスンの場となっており、美術館への理解が深まっています。

稚園の子どもたちが、このプログラムに参加しています。一人の園児が複数回（平均3.5回）大原美術館を訪れ、「絵画鑑賞とパズル」「彫刻鑑賞」「美術館探検」などのメニューを体験していきます。このプログラムでは、「美術館の役割について伝える」「作品鑑賞を支援する」に主眼がおかれ、最初の来館時に展示場内での禁止事項を絵文字で説明して、「美術館はみんなの大切な宝物がある場所、それをみんなで楽しむところ」を理解させ、そして単に絵画鑑賞するのではなく、絵の前で絵を描き、作品と向き合って一人一人の内に生じた観察や感覚を大切に、また作品を見て感想を言い合い、さらにはお話を作るなどのプログラムを通じて、想像力を引き出す工夫がなされています。

「チルドレンズ・アート・ミュージアム」は、毎年8月末の土日の2日間に、美術館各所で15ほどのさまざまなタイプのワークショップが実施されます。これは、「未就学児童対象プログラム」「学校まるごと美術館」のように保育園、幼稚園、学校など対象が限定されたプログラムと違い、事前申し込み不要で、年齢制限なども設けず、入館料のみで参加できます。学校での来館とは異なり、好きなだけ美術館に滞在することができ、自分の嗜好や発達段階に応じたプ

ログラムを選択することが可能で、多くの親子連れが美術館をいろいろな角度から体感し、美術館に親しんでいます。プログラムへの参加者が高校生、大学生、社会人となり、大原美術館で開催されるさまざまなギャラリートัวร์、美術教室、美術講座への参加へとつながっていくのでしょうか。そして、彼らが親となり、子どもを連れて大原美術館を訪れてくれるのでしょうか。（お断り）本文の内容は、新型コロナウイルス感染症拡大以前の情報に基づいています。

参考：「小さなお客様に向けた大原美術館の取り組み」柳沢秀行（『博物館研究』2018年9月）



画像提供：大原美術館

学校まるごと美術館

飯田郷介 (Kyoike Hideo)  
六花亭製菓株式会社「中札内美術村」「六花の森」館長

1973年早稲田大学理工学部建築学科卒業、株式会社大林組入社、建築設計部門を経て、企画提案部門でプロポーザル、プレゼンテーション、プロデュース業務を担当し、六花亭製菓株式会社の菓子工場、店舗、美術館、音楽ホール、鈴鹿かまぼこ株式会社（神奈川県小田原市）の店舗、文化施設、「玉村豊雄ライブ・アート・ミュージアム」（神奈川県箱根町）などの企画・設計・プロデュースに携わる。2013年より現職。

## GIGAスクール構想のもとでの教師の課題



元筑波大学学長  
新潟産業大学名誉学長  
北原 保雄

私が教育出版の国語教科書の編集に参加したのは1982（昭和57）年、昭和61年度版の小学校国語教科書からだ。その翌年から、続いて中学校国語教科書の編集にも参加したのだが、振り返ってみると、40年近く前のことになる。代表著者は、木下順二さん、柴田武さん、松村明さんのお三方で、その頃は、皆さんお元気だった。私も若かった。小学校と中学校の両方だったので、週に複数回、編集委員会が開催されたが、いい教科書を作らなければならない、日本の国語教育を先導するような日本の国語教科書を作るのだという使命感のようなものがあり、ほとんど欠席することはなく一所懸命だった。みんな真剣だった。その頃若かった編集委員もほとんど変わった。そして、教科書の内容も変わった。

そして私自身も、その後、公務がだんだん忙しくなったりして、重要事項などについてだけ特別に相談を受けるようになり、現在は編集委員の代表的立場に立っている。今昔の感に堪えない。

中学校用については、令和3年度版から代表者を若い先生にバトンタッチしたが、40年の間にはいろいろあった。

大きなものを1つだけあげれば、2008（平成20）年3月に新しい学習指導要領が告示され、「全教科の指導に当たって、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境

を整え、児童、生徒の言語活動を充実することに配慮する」こととなったのを受けて、小学校の全教科の教科書の言語的活動に関して監修することになった。

この改訂は、小学校の教育全体にとっても、私個人にとってもきわめて重く画期的なことだったが、いいことは長く続かず、次の改訂の時には消滅してしまい、残念だった。

さて過去の思い出話はこれくらいにして、現在の国語教育について話を移すことにしよう。現在の教室現場は大変だろうと思う。ずっと続いてきた紙による教育がパソコンによる教育に一変しようとしているからだ。大学ではコロナ禍の影響を受けてパソコンを使った遠隔授業が一般化している。義務教育ではまだあまり進んでいないようだが、GIGAスクール、GIGA教育などの名のもと、生徒一人一人が一台の端末を持つ時代になっている。ちなみに、予算の関係で国による配布が遅れていたが、コロナ対策の補正予算のおかげで達成されているようだ。結構なことだが、私などにはパソコンの細かい操作のことはわからない。ニュースを見ると文章を打つくらいしかできない。子どもの方がよほど進んでいる。つまり、教師失格だ。私ほどでないにしても、悩んでいる年配の先生もおられるのではないだろうか。

第19回

## 地球となかよしメッセージ

作品発表のお知らせ

「第19回 地球となかよしメッセージ」入賞作品は  
『Educo』2022年冬号（2022年1月下旬発行予定）  
で発表します！

昨年度の入賞作品は、教育出版ホームページでごらんいただけます。

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真やイラストにメッセージをつけて表現する「地球となかよしメッセージ」。今年度も、すばらしい作品が集まりました。



「Educo」バックナンバーについてはお問い合わせください。

# コロナ禍でも「そんなの関係ねえ!!」 教育動画で笑いと学びを届けたい

ほ・つ・と・な・出・会・い

タレント 小島 よしお さん

## YouTubeの教育動画が 子どもたちに大人気

去年からYouTubeで「小島よしおのおっぱっぴー小学校」というチャンネルを開設し、子どもが授業で疑問を抱きがちな点をわかりやすく解説する、教育動画を配信しています。動画ではおぼえうたを歌ったり踊ったり、ウナギの生態に迫ったり、田んぼで生き物調査をしたりと、僕が体を張って、さまざまな挑戦をしています。収録するときは僕ひとりでも、画面の向こうにいるたくさんの子どもの顔を思い浮かべて、問いかけや語りかけをしながら進めるようにしています。

## 休校期間中の学びを動画でサポート

動画を作り始めたのは去年の3月、緊急事態宣言で全国の学校が休校になったのがきっかけでした。子どもたちのために何かできないかと思っていたときに、知り合いの放送作家さんからお話をいただいて。作家さんにはお子さんがいて、日本の子どもの学力がコロナ禍で低下



してしまおうの心配されていました。なんでも、「小学校5年生の壁」というものがあり、多くの子どもがここで勉強につまずいてしまっただけ。僕が早稲田大学の教育学

部出身で、子ども向けのライブを長年続けていることをご存じだったので、「授業の動画をやってみたい？」とお声がけくださったのです。それなら子どもたちのために一肌脱がうと決心しました。(脱ぐのは得意なので)「おっぱっぴー小学校」を始めるとすぐに評判が広まり、チャンネル登録者数は今や11万人を超えました。

子どもたちからは「時計を読めるようになりました」とか、「勉強嫌いだったけど、この動画は観ています」など、たくさんコメントが寄せられています。親御さんや先生方からの反応は今までにな

いくらいよいですね。「そんなの関係ねえ!!」でブレイクしていた頃は、「子どもが言うことをきかなくなるからやめてくれ」と言われていたのです。それを考えると、今は180度違う評価をいただいています。学校の先生からも「おもしろかったよ」との感想をいただけて、本当にうれいすし、次の動画を作るモチベーションになっています。

## 教えることの難しさと楽しさ

動画を作るときは僕と放送作家さんとディレクター、監修の方でチームを作り、アイデアを出し合って構成や表現を考えています。自分でやってみて、授業を作るって本当に大変だなと実感しました。「÷3」はひっくり返して「×1/3」であると僕は機械的に覚えてしまいましたが、これを教えるとなったとき、どう説明すればいいのか。時計の読み方にしても、時計は12進法と60進法が一緒に使われているので、説明にはたと迷ったり。こちらが当然と思っていることが、子どもにはわからないかもしれない。彼らの目線に立つて、物事の本質的な部分から説明しなければ

ならないことに、難しさとやりがいを感じます。学校で実際に教えている先生方は本当に尊敬しますし、頭が下がります。動画を作る際、僕はなるべく自分が楽しんで、子どもたちに「楽しいことをやっているんだよ」というメッセージを送るようにしています。先生方も、まずはご自身が楽しんでほしいですね。

## 動画で学んで広がる世界

授業のヒントを得るため、日々の読書は欠かせません。子どもの頃から本はよく読んでいて、近年興味があるのは論語、五輪書、菜根譚です。今後は英語や社会、プログラミングなどの授業動画も作っていきたいですが、将来的には論語を下敷きにした道徳の授業などもできないか、思案中です。

僕が子どもの頃は、学校の先生や友達、家族が世界のすべてでした。でも今の子どもたちは動画で学ぶことによって、学校や家庭とは全く異なる、いろいろな世界や価値観があると知ることができるので、素晴らしいなと思います。一つの教えに凝り固まらず、世界にはいろんな人がいて、自分が生きている限られた社会とは全く違う文化や価値観、多様性にふれられるのは、人としての幅や選択肢を広げられます。それは自らの可能性を広げてくれますし、今後生きていくうえで大きな助けとなるのではないのでしょうか。

## 小島よしお (ごじまよしお)

1980年沖繩県生まれ、千葉県育ち。早稲田大学教育学部国語国文学科卒業。自身の父が校長を務める専門語学学校、欧米・アジア語学センター副校長、大学在学中から芸人として活動を始め、「そんなの関係ねえ!!」が2007年「ユーキャン新語・流行語大賞」にトップ10入りするなど大ブレイク。著書に「小島よしおのどけいドリル」(ワニブックス)、「キッズのニコロわっかみゆ」(主婦と生活社)他。

## Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

- ◆サヘル・ローズさんのお話には、生徒・先生・保護者の皆さんに伝えたい珠玉の言葉に溢れていた。(福島県 N.Y)
- ◆教育NOW. それぞれの内容は充実したものでした。特にGIGAスクールの推進については大いに参考になりました。(千葉県 Y.H)
- ◆鈴木健二先生の「15分でできる小さな道徳サンプル版」はとてもよい教材だと思いました。多くの学校で活用されるとよいと思います。(愛知県 T.S)
- ◆ほっとな出会いの亀井社長の金言「若者、よそ者、馬鹿者」同感です。多角性は宝です。(千葉県 F.S)

## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のひびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

教育出版は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています